

■ OnAir 2500 ニュース

株式会社鹿児島読売テレビ 様

OnAir 2500 - 12

録音室に OnAir 2500 を採用



株式会社鹿児島読売テレビ様の録音室に OnAir 2500 が採用されました。同社の録音室は1994年の開局以来、初めての更新になります。録音室は主にアナウンス・コメントの収録用として運用してきたスタジオですが、この度の更新計画にあたり、単に開局当時のままシステムを更新するのではなく、現在の作業ルームに相応しい稼働効率のよいシステムにすることを前提に仕様を検討されました。その結果、もともとは音声中心の録音室でありましたが、近年の機材の進化及び省スペース化を視野に入れ、映像編集エリアの併設を同時に計画されることになりました。収録してきた素材の編集から完パケまでの一連の流れを、この部屋内で完結できるようになります。また、編集上がりの映像を見ながらのMA的な音付け・音加工も容易にできるよう配慮されています。

新設備の導入は、先ず本来の録音室の機能を継承する音声システムの更新工事、続いて新たに設備する映像編集システムの設備工事の二段階で進行了しました。録音室の核となる音声卓は、音声技術者ではないスタッフも扱えること、映像編集システムとも組み合わせた回線を扱えることを目的として選定が行われました。

スチューダーの音声卓、OnAir 2500 と OnAir 1500 を、実際にオペレートするスタッフにそれぞれ実機を操作していただき、検討していただきました。従来の録音室の機能だけであれば、安価な OnAir 1500 でも必要十分な仕様であり、どちらも同様のオペレーションが可能でしたが、MA的な制作作業における音声の加工やモニター系、ファンクションボタンの充実を考慮すると、OnAir 2500 の余裕あるパネル構成が相応しいと判断されました。

線したため、編集室の音声素材も直接扱えるようになりました。

第二段階の映像編集システム導入工事では、グラスバレー社の HDWS-3GS ELITE を核とする HDCAM と DVCPRO 及び DAW を設備され、小規模ながらも映像システムと音声回線を多彩に扱えるシステム構成となっています。

従来のツーマン運用によるアナウンス・コメントの収録作業だけでなく、例えば既設の編集室からも直接ブースのナレーション音声を収録できたり、OnAir 2500 を使ったアナウンサーだけのワンマン操作によるコメント収録、さらに熟練技術者による MA 作業までもが可能となり、制作する番組に合わせて、幅広く柔軟に稼働できるシステムを実現されています。



OnAir シリーズは、ワンマンでの生放送にも標準仕様にて対応しているため、アナウンサーが音声卓を操作しながらコメントを収録できるよう、ワンマン運用にも対応できるシステムも採り入れることになりました。もちろんアナウンスブースにもカフを2式用意し、従来のツーマンの運用スタイルも継承しています。また音声システム更新工事の際、既存の映像編集室との回線も布

